|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和３年度田辺市社会教育委員会議　第６回定例会 |
| 日　　　時 | 令和４年３月29日（火曜日）　　午後１時30分～３時00分 |
| 場　　　所 | 紀南広域廃棄物最終処分場　２階会議室 |
|  | ○社会教育委員出席者13名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、小山委員、近藤委員、九鬼委員、坂本委員、佐久間委員、砂野委員、中根委員、西川委員、柳川委員欠席者０名：　○事務局６名：　前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長、尾﨑公民館係長、遠山公民館係主査、澤本生涯学習推進係主事※教育長は他の公務の都合により欠席 |

１．開会　教育次長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）令和４年度田辺市教育行政基本方針及び各課活動方針について

（２）令和３年度（第33回）田辺市スポーツ賞について

（３）文化振興課の行事予定（３月）について

（４）南方熊楠顕彰館の行事予定（３～５月）について

（５）第32回南方熊楠賞授賞式について

（６）第31回南方熊楠賞受賞記念講演について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

A委員：いつも思っているんですけれども、１ページの「郷土にゆかりのある偉人」に弁慶さんがいる

ことが疑問なんですね。弁慶さんは色んなところで伝説が残っていて、なぜこの方が郷土にゆ

かりのある偉人になっているのかがよくわかりません。もっと他の人がいるのではないかと思

っています。それと、４ページの文化振興課の活動方針なんですけれども、美術館や南方熊楠

顕彰館を知らない子どもや大人もいるんですね。私は興味があるから知っているんですけれど

も、興味のない人は全く知らないし、大人はいいにしても、子どもも知らないというのは変な

気がするので、学校から連れていってくれないのか、と言ったことがあるんですね。そうした

ら「バスも要るし、そんなことできないよ」と言われたので、この場で言わせていただきまし

た。子どもたちには、こんなものがここにある、建物や、美術館にはこんなものが飾られてい

るんだということを知らせるべきではないかなと思いました。

次長：郷土の偉人につきましては、旧田辺市の方で、三偉人ということで、弁慶、南方熊楠、植芝盛

平翁、ということで、偉人顕彰というのは、商工会議所の方から観光プロジェクトということ

で構想が立ち上がりました。その中で、教育委員会の中では、植芝と南方についての足跡を顕

彰していく、というような取り組みが旧市から始まりまして、ここでいう偉人というのは、植

芝と南方が中心になっています。九鬼委員の地元にも、山本玄峰など、地元にゆかりのある偉

人については、地域学習等の中でも取り上げるような形で取り組めていけたらと思います。教

育施設の関係につきましては、仰るとおり学校教育の現場でも紹介できる機会を増やしていっ

たり、また、南方熊楠顕彰館や植芝盛平記念館の方でも、学校のカリキュラムや課外活動で使

っていただけるような周知も行う中で、学習活動で使う場合は、児童と生徒の見学については、

顕彰館の方は南方邸が観覧料が通常必要であるところを、全額減免という形にしておりますし、

学校教育の方では、植芝盛平と南方熊楠の副読本を、小学生に配本させていただいて、地域学

習の一環に、偉人を学習する機会を現場の方で活用していただけるような体制を作っているよ

うな状況でございます。

B委員：今の九鬼委員のお話の問題点というのは、学校に提案したら「お金がかかるから無理だ」とい

う風に言われたという、現場の対応の問題だと思うんですよね。もちろん受入側は、減免とか

やっていただいているのは良いことですけれども、そこら辺がなんとかならないのかなと思っ

たんですけれども。

次長：ご指摘、ごもっともなことだと思います。本宮教育事務所や他の教育事務所、現場に近い所管

課の方には、そのような不親切な対応というのはけしからんことですので、きっちり指導して

おきたいと思います。

　　　 C委員：私は以前美術館協議会委員をやっていて、今は小山委員がやってくださっていて、意見として

協議会で言ってくださいとお願いしたんですけれども、新庄公園の美術館まで学校現場から来

てもらうのは難しいと聞いているんです。そしたら、学芸員が出張する案もあったり、オンラ

インで美術館の紹介であったり、今の展示物の説明であったりを取り入れてもいいのかなと思

います。やっぱり本宮とかだとすごく遠くて制約があると思うので、今はオンラインという手

段があるので、使っていってもいいなじゃないかなと思います。

　　　 D委員：今、近藤委員からお話がありました、美術館協議会について、オンライン学習を提案してきま

した。実際、美術館の方では、著作権であったり、まだまだ解決しなければならない課題が多

いなという感じではあったんですけれども、出席していた他の運営委員の、主に大阪や兵庫の

博物館の学芸員の方からは、「うちの館では写真撮影可能にしています」とか、「クリアして

いる課題も多いです」という風に、前向きな意見が頂けたので、美術館の方でも、オンライン

の活用であったりというのは前向きに進めていくという意見で一致しました。それに関して、

今の九鬼委員の提言にも関することなんですけれども、地域学習というものについては、教育

行政の方でも旗振りというか号令は必要だと思うんですけれども、今シンポジウムでしている

ような細かいものについては、地域の住民や企業との連携が必要になってくると思っていて、

それが地域文化の継承にもつながるので、できたら学校側がもう少し歩み寄るような形で利用

出来たらいいなという風に思っています。この社会教育委員の公募委員の応募の時にも書かせ

ていただいたんですけれども、今、梅業者や農業遺産に関する学習もできる秋津野ガルテンの

ような設備も整っていると思います。そういう風なところを、学校として利用しながら、身近

な地域学習については進めていけたらいいなと思うので、その辺りは教育行政の方が旗振りを

していただけたら、我々一般企業としても動きやすいかなという風には思います。

　　　 E委員：今のご意見の関連です。私は、近野小学校が最後の学校現場での仕事でした。九鬼委員がお話

しされていた学校側の対応を驚きながら聞いていたんですけれども、ただ、学校現場で、実際

に中辺路の近露から、人数が少なくてもバスをチャーターして出ていくというのは、予算の問

題で言うと難しいんです。今のご意見の中で旗振りというお話もありましたけれども、地域差

があっても子供たちに平等な環境を提供する取り組みというのは、学校現場にだけ言われても

難しい問題があるので、その辺りは、旗振りという言葉の重さを感じてもらえたらいいなと思

いながら聞きながらお聞きしました。

　　　 B委員：さっき言い漏れたんですけれども、要は現場に注意するんではなくて、予算をつけてもらえた

らいいのかなと思いました。先日、ＶＲ体験をする機会がありまして、その体験として用意さ

れていたのが美術館だったんです。本当にそこにあるように、美術館を見て回れたんです。そ

れがどれだけお金がかかるか分かりませんが、それを田辺でやれば、どこにいても田辺の美術

館を体験できる。それをやってから現場にいくと楽しいんだろうなと思ったので、ただのオン

ラインよりもＶＲは絶対楽しいだろうなと思いました。

　　　 F委員：お尋ねします。各行政局に、昔で言う「住民バス」みたいなもの。大塔では、女性団体が移動

するのに、田辺まで来るのに４万円ほどかかるのでということで、何年か前に交渉しまして、

色んな団体が福祉バス以外に、運転手と、ガソリン代と、乗車する方の保険とを負担すると、

行政局にあるバスを利用できるというのがあると思うのですが、各行政局にはないんでしょう

か。

　　　 E委員：近野小学校にいたときには、年間にバスを使える制約がありました。その当時ですから今はわ

かりませんけれど。その制約の中で、遠足もあるし、スポーツ大会もあるし、支援の枠はあっ

たんですが、それを使い切ると使えないので、という風なものは当時ありました。

　　　 課長：稲垣委員からあったお話については、各行政局に、環境としてはあると思います。ただ、それ

がどういう条件で貸し出しているのかは今はわからないんですけれども、利用した場合は、先

ほど仰ったように保険やガソリンであったり、運転手の委託料、そういうものがその都度かか

るという風になっているのかなと思います。誰でも利用できるのかということについては、今

はお答えし兼ねるんですけれども、そういった状況でございます。

４．協議

（１）生涯学習推進計画素案検討部会について、事務局より会議結果報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

G委員：残り２ヶ所となった地域シンポジウムですけれども、今現在１６ヶ所に参加して、本当に館に

よって、２つ目のお題でペンがとまるところ、３つ目でとまるところ、最後まで駆け抜けるよ

うに進められるところ、地域差があるなということを率直に感じました。先日から議長、副議

長と話す機会があったんですが、世代間の認識の差を大きさを感じ取りまして、特に、田辺だ

けじゃなくて日本全国で、地方都市が「若者が残らないのは仕事がないからだろう」っていう

ところについて、再検討する必要があるなと感じました。シンポジウムに来ていらっしゃるベ

テランの方の仕事観と、２０年離れた僕らの仕事観と、学生の仕事観と、小中学生の仕事観の

差というものは極めて大きいのじゃないかなと思います。最近、高校生のアンケートで、男子

高校生のなりたい職業の２位が公務員というのは、堅実ではあるんですけれども、仕事観とい

うところではかなり差があるのではないかなと。要は大きい企業がないから企業誘致すればい

いみたいな話が多いところがあって、でも今紀北筋で聞くことがあるのが、企業誘致をしても

人がなかなか来ないと聞いたことがあるので、そこら辺のミスマッチがあることを踏まえると、

色んな人が考える「仕事とは何か」みたいなことを大規模にアンケートしたらこれはなにか面

白い結果が出るんじゃないかと思いました。

C委員：アンケートについて、私は項目について一つずつ意見が必要なのかなと思って意見を書いてい

るんです。事務局としては今回はそこまでは必要なかったらしいんですけれども、他の方も同

じように意見を出した方もいらっしゃるかもしれないので、今度まとめる時に、どういった意

見があったかというのを出してもらえたらと思いますのでよろしくお願いします。

　事務局：近藤委員には様々なご意見をいただきましてありがとうございます。私の書き方や送付するタ

イミングの関係で、こちらはアンケートの報告書について修正はないか、という意味で送った

つもりだったんですけれども、多くの委員さんから、アンケート結果を読み込んでの感想なり

意見をいただきました。これについては、的外れということではなくて、４月以降、これから

冊子を作り上げていく中で、重点アクションプランなどを考えるにおいても、重要なワードが

たくさんあると思いますので、総括して、資料としてご提供するように考えていきます。

（２）人材育成事業企画部会について、事務局より会議結果報告を行った。

議長：では、先日の田辺高校出張講座の感想から進めます。

　　 副議長：先日の田辺高校の出張講座に行って、紀伊民報さんにも記事にしてもらいました。見たかたも

いらっしゃるかとおもうんですけれども、とにかく良かったです。商工会議所の職員の娘さん

で聞いた方がいらっしゃって、いつもオンラインの話をする時は寝てしまうけれども、今回は

最後まで聞いたということです。金丸さんの話は皆さんご存知のとおりですけれども、山本さ

んは、おとなしそうなんですけれども、かなりキャラがたっていて、就職も、人間を成長させ

るランキングの上位４つを受けて全て受かったということで、その中でもある有名企業につい

ては、就職を断りに行ったけれども、１～２年は新入社員扱いできるから、その気になったら

また来い、と言われたそうで、それくらい魅力のある人物です。山本さんが言うには、それら

の会社を全て断って、梅干しの製造会社を立ち上げた。その決断をしたときに、周りの大人が、

年収１千万を捨てるのか、とか、一度世の中に出た方が良いとかいう言葉を言われたんですけ

れども、そういう言葉を全部「ドリームキラー」という言い方をして一蹴するというか、自分

がやろうとしていることを邪魔しようとしてくる、と。一度世の中に出た方が良いというのは、

自分も言ってしまうな、と思って、自分もドリームキラーの方に足半分突っ込んでいたな、と

いうか、若い子の言うことはそうさせたらいいと思っていながら、実際に身近な人がそうなっ

ていたら、同じようなことを言ってしまうな、というのを、すごく反省しながら聞きました。

アンケートはまだ全ては読み切れいていないんですけれども、今見ていても、響いたなという

意見がアンケートにあるので、ぜひこれは皆さんご一読いただけたらなと思います。また引き

続き、金丸さん、山本さん、前にやっていただいた龍神の中島さんなんかは、高校生にどんど

ん働きかけていきたいネタを持っている方々だなと思います。

議長：もうほとんど言っていただいたんですけれども、高校生２８０名からいただいた講座アンケー

トの感想は分量も多く重複する部分もあるんですけれども、ぜひお目通しいただきたいと思い

ます。特に、金丸さんのアンケートの中で、女性が都会で働きにくいとか、保育所に入れられ

ないから仕事が出来ないよね、っていうのを書いている子が多い。多分女の子が書いているの

かなと思うんですけれども、ぜひ来年、生徒は進級して１年生は変わりますので、金丸さんや

山本さんの話を聞いていただくと、その生徒さんが将来のことを考えるにあたって、大変役に

立つんじゃないかなと思いました。和歌山県社会教育委員連絡協議会の研修会で、絵本のお話

を聞きに行ったときに、大人は「何になりたいか」は聞くけれども、「どんな人になりたい

か」とは聞いてくれないというような話を聞きました。山本さんの話でも同じセリフが出まし

て、すごく信頼している先輩に相談したら、世間的に評価が高いところを狙ってずっと人生を

過ごしてきた山本さんに「あなたはどんな人になりたいの」と聞かれたそうです。その言葉を

きっかけに、色んなことを考えて、今の進路に至ったと仰っていました。自分のことを振り返

っても、高校生の時に、世間的な評価とか偏差値を気にして進路を選ぶか、何をやりたいのか、

どんな人になりたいのか、ということを基準に考えて進路を選ぶかで、後々人生が変わってく

るな、という感想を持ちました。仕事というものを考えるにあたって、先ほど西川先生も仰っ

ていましたけれど、高校生、中学生、小学生はもしかしたらちょっと難しいかもしれないです

けれども、今後考えていっていい課題かなと思いました。次になにか、講座に関してご質問や

ご意見はございませんか。特に、令和４年度の事業の方向性についてはいかがでしょうか。

G委員：人材育成については、総論として、早めにシンポジウムをやっておいた方が良いというのは、

部会でもお話が出ました。あとは、誰に聞かせるかというのは意識した方が良いという話に部

会でもなりまして、特に、高校の講座でこんなに感想があるのが初めてで、一個一個が面白く

て深くて、アプローチすれば反応してくれるんだな、という感じです。これは高校生向けの、

学社融合的でもあるし、色んな大人がいますよ、ということを伝えられたのかなと思います。

となると、移住者の人の話を聞いてもらった講座は、当事者が来たら面白いかなと思ったんで

すけれども、実際に来たのは関係者が多かったなという印象です。一方で、議員さんが多く来

てらっしゃったので、議員さんとはこういう人か、というのがわかったというのはよかったの

かな、という意見もありました。来年度の話になった時に、田辺の明日を考えるシンポジウム

の内容はこれでいいと思うんですけれども、どういう風に位置付けるか。真砂市長が、田辺の

人材育成というのは、田辺未来創造塾と田辺市まちづくり市民カレッジだ、という風に理解さ

れていて、生涯学習だけ、産業部局だけ、じゃなくて、両方があって、それを踏まえて総合的

に考えるんだ、というところを理解いただくためには、しつこくてもいいので市長を呼んで、

一緒に議論して、意見をもらったり、こちら側も発信したり、ということが大事なので、シン

ポジウムは真砂市長に聞いてもらうと同時に、こんな人がいます、ということを発信する場で

いいのかなと思います。総論的に言うと、講座をやる時の成果、何人来たのかが第一次の成果

で、第二次の成果が、来てくれた人がどう変わったのか。理想はその３段階目の、社会的なイ

ンパクトなんですけれども、高校出張講座はまず今回280人聞いてくれて、考え方がこのよう

に変わった、というのはこのアンケートから読み取れる、そして実際にこの280人から、本来

であれば外に出ていったっきりで戻ってこなかったはずの子が、一人でも二人でもこれがきっ

かけで帰ってきたとなったら、これは田辺市にとっては大成功な事業ということになるので、

そういった位置づけをしておくというのは大事なのかなと思います。

H委員：今の話を聞いて、高校生たちは本当にいい話を聞けて気持ちが動いたんだなということを、感

想文の量から見ても感じたので、じっくり読みたいなと思いました。参考までに、中学校、小

学校、高校と、キャリアパスポートという取組みは現在行っています。小学生１年生から高校

まで、小学生が書いたキャリアパスポートを中学校へ、中学校で書いたものを高校へ、という

ことで引き継いでいくような形で、これの目的は、先ほどもあった「何になりたいか」という

ことも含めて、「どんな人になりたいか」ということを振り返りながら、自分の成長を記録し

ていくという取り組みなんです。形式は和歌山県でひな形はあるんですけれども、学校によっ

て決めていまして、どういう風な形式にするのかは、それぞれの学校が考えて作っています。

中芳養中学校は、小学校と連携して、本はしっかり読ませたいなということで、キャリアパス

ポートの中に、この１年間で１番印象に残った本を記録して残していこう、それを振り返って、

自分がどんな本を読んだのかというのを大人になった時に振り返れるようにということでして

います。ですから、そういった取り組みもしているということで、今こういう取り組みを聞き

ながら、こんな話だったらうちの中学校の子たちにも聞かせてやりたいなと思いました。

C委員：私もアンケート簡単に読ませていただいたんですが、金丸さんのところでは、「都会への誤っ

た認識に気づけた」「もっと自分の住むまちの魅力にふれていかねばならないと思った」とか、

山本さんのところでは、「高校生に寄り添ってくれた話の内容であり、今一番聞きたかった話

が聞けた」っていうのがあって、これはもうやっぱり、絶対続けていったらいいかなって思い

ます。そして、田辺の明日を考えるシンポジウムがコロナの関係で中止になったので、これは

早めにやったらいいかなと思います。

　事務局：坂本委員にお尋ねしたいのですが、今年度の第一回の定例会で、高校出張講座について、中学

校も対象にしての実施は検討できるかというご意見をいただきました。その時には年度計画も

出来上がっている状態で、今年度中の検討は出来なかったのですが、来年度の事業を検討する

にあたり、試験的に、中芳養中学校で出張講座をさせていただく、といったことは可能でしょ

うか。

H委員：できると思います。

　　 I委員：令和３年度の振り返りということで発言をさせていただきます。まず、私の場合は子供がいな

くて社会とつながらない、移住者で友達がいなくて知人もいなくて誰も知り合いがいなくてど

こにもつながっていない、そういう人がどうやってやっていけば地域に出ていけるか、という

私なりのところもあったし、皆さんの、ある既存のコミュニティというのは、他者を受け入れ

るとか、色んな意味で社会教育委員という立場から見させていただいて非常に勉強になった１

年でした。そうした中で、やっぱり公民館、私は地域として、社会教育の一環としての地域シ

ンポジウム、その地域に住む人たちがどうやって地域のリーダーとなり、リーダーにならなく

ても地域を創っていくかということを自分自身で考えていって、それがどういう風に反映され

ていくのかというところを見るのが非常に興味深かったんですけれども、まだ私１年目で、皆

さんの声が出てくる、というところを大変実感もして、自分も声を出すとしたらこういうとこ

ろにつながっていかなきゃいけないんだなということも見えてきたというところが、私自身の

勉強であり、地域シンポジウムとしての意味を感じたところなので、じゃあ出たものが、今ア

ンケートが出たり、地域シンポジウムで何人来て、という結果が出たときに、これがどういう

風に結実して、先ほどから言っている、地域に帰ってくる人がいて、それを受け入れて、Ｉタ

ーンでもＵターンでも受け入れるだとか、そういったところを見て、また私なりにもうちょっ

と考えて意見が言えるようになったらいいなという風に思った１年でした。また今後ともよろ

しくお願いいたします。

　　　 J委員：私も今年初めて参加させていただきまして、小学校の役を中心に色々としてきたんですけれど

も、正直今年一年間は難しかったです。まず出てくる言葉が難しいし、今まで私が携わってき

た会議や役と違って、外から客観的に見れるというか、違う方向から取り組めたのかなという

ところで、覚えるのに必死でした。ただ、今年の１年が全てじゃないとは思っているんですけ

れど、１つ大きな部分としては、とうとう息子が小学校を卒業することになって、もう早々と

東陽中学校の方からは役員の打診があって、なんでもやらせてもらいますとは言っているんで

すけれど、まさに自分の子供が中学、高校に上がっていく過程の中で、その自分の立場の中の

部分と、いわゆる社会教育委員としての立ち位置の部分とで、違った方向で見て勉強できるの

かなと思ったので、ちょっと勉強しつつ、楽しみながら会議にも参加させていただきたいと思

っていますので、また勉強させていただきますのでよろしくお願いします。

　　　 K委員：何年たっても勉強で、一つもわかっていないところが多くて、本当にエンドレスだなというの

は思います。前川次長とは、田辺第二小学校がものすごくにぎやかな時に、育友会私も長い間

させていただいていたので、色々とお世話になって、色んなことで保護者が大騒ぎした時代で、

子供以上に学校にいてた記憶があって、その節はお世話になったんですけれども、この間学者

融合推進協議会に参加した時に、人材育成の時もお話させていただいたんですけれども、あの

文里が、子ども会の参加が８人と、そういう嘆きを聞きまして、やっぱり子ども会に入らない、

コロナで行事もできない、昔はなぜが学校に行っていて、先生の悪口であったり、行事のこと

であったり、悩みがあったら、どう？って子どもと話ができて、すごくそれが緩和されたよう

に思うんです。そういうこともあるのかとか、特に第二小学校は、育友会がすごく元気だった

し、大事にしてきたので、そこで学校の問題も一緒に解決しようという、校長先生とてそうい

う感覚で会ったので、本当に共有しながら、問題は多かったんですけれども、色んなところで

解決できた時代であったなあと痛感いたします。今、問題が起こると、事がものすごく大きく

なってから発覚して、教育委員会にいったりというのが多いのかなと実感しております。手の

打ちどころがない。その中で、来年度のことでも言わせていただいたんですけれども、やっぱ

り公民館が要になったり、そういう場所ができたらいいなということで、人材育成のほうでも

発言させていただいたんですけれども、先ほど坂本先生も言われたように、ちょっとした、何

か地域と出来たり、子供たちと触れ合ったりということが多くなるように、社会教育委員でも

数年前から、高校生を巻き込んでしようというので回数を重ねていく中でこういう素晴らしい

結果が出ていますし、地道に長く続けて何か形になるということもあるのだなと、そこも救い

だなと思うので、大人も子供もお年寄りも、自分で考える力を養うためには、外からの情報で

あったり、色んなものを知ることが必要になってくると思うので、アウトプット、インプット

がたくさんできる場所がたくさん社会教育委員からも提案することももちろんですけれども、

それが学校であったり、大学であったり、色んなところで花開いたらな、というのは、本当に

思います。今後ともよろしくお願いします。

　　　 L委員：私も振り返りますと、なかなか平日調整するのが難しい面もあって、欠席も多かったので、教

えていただくばっかりだったんですけれども、私も保育園や小学校の役、仕事、子育て、家の

こと、とある中で、忙しかったな、という感じなんですけれど、感想としては楽しくやれてい

るなというのが自分の中であります。私も仕事上、若い子たちの就労のお手伝いもしているん

ですけれども、田辺高校の感想にあった「ドリームキラー」って上手いこと言うなと思って、

私も本人の気持ちは大事にしながら進めていく中で話をしていると、「親からこんなところ受

けるな」と言われたけど自分は行きたいっていうのがあって、そこで色んな相談業務を重ねて、

迷走していた子も、結局は自分が行きたかったところに今年就職できた例があって、それを思

い出しながら聞いていました。

５．その他

　・C委員より、田辺市総合計画審議会についての報告があった。

６．閉会　副議長挨拶